

2004年6月21日

各位

カーライル・グループ
京セラ株式会社
KDDI株式会社

カーライル・グループ及び京セラによる DDIポケット買収でKDDIと合意

カーライル・グループ(本社:米国ワシントンD.C.、日本における代表者:安達保、以下、「カーライル」)、京セラ株式会社(本社:京都市伏見区、社長:西口泰夫、以下「京セラ」)、KDDI株式会社(本社:東京都新宿区、社長:小野寺正、以下「KDDI」)、ディーディーアイポケット株式会社(本社:東京都港区、社長:山下孟男、以下、「DDIポケット」)の4社は、本日、KDDIの子会社であるDDIポケットの事業を、カーライルと京セラのコンソーシアムが買収することで合意致しました。

本合意により、DDIポケットの事業を承継する会社(以下「新会社」)の新たな株主構成は、カーライル60%、京セラ30%、KDDI10%となります。これまでDDIポケットの81%を保有していたKDDIは事業の選択と集中の観点から、新会社への出資を10%とし、同じく従来DDIポケットの13%を保有していた京セラが今まで以上にPHS関連製品事業に注力するために30%を出資し、さらにカーライルが過半数持分保有者となります。なお、買収は現経営陣の続投を前提としており、DDIポケット現経営陣は今後も引き続き新会社の経営に携って頂くことで関係者間の合意が取れております。また、現従業員の方々についても、引き続き当該事業発展のためにご尽力頂くことを前提としており、いわゆる雇用調整等は一切想定しておらず、当面の処遇についても現従業員の方々にとって現状よりも不利にならないようにすることを基本方針としております。このように、現経営陣、現従業員が引き続き新会社の事業拡大に携わっていくことから、今回の取引によってDDIポケットの既存のお客様やお取引先に何ら悪影響を及ぼすことはないと考えております。

DDIポケットは、その中核サービスである定額モバイルデータ通信サービスAirH(エアージェッジ)の加入者数が年々増加するなど、モバイルデータ通信分野におけるトップ企業として業績は順調に推移しております。今回の合意締結は、こうしたDDIポケットによるPHS事業、特に法人向けモバイルデータ通信市場における中長期的な競争優位性及び拡大余地を高く評価したカーライルが、京セラとコンソーシアムを組み、KDDIに対して資本参加を打診、事業の選択と集中の観点からDDIポケット事業の最良のあり方を検討してきたKDDIが提案の受け入れを決めたものです。

カーライルは通信分野において世界的に数多くの投資実績を有する一方、京セラはDDIポケットの主要ベンダーとしてのみでなく、PHS事業の創成期から今日まで同事業の発展のための技術開発及び製品化を通じてDDIポケットの事業を支援してまいりました。新会社は今後、両社の強力なサポートのもと、同社がすでに有する全国16万にのぼる基地局設備、マーケットリーダーとし

で確立されたポジション、さらにはコスト競争力をはじめとするPHSの本来的な強みを活かしつつ、通信速度の高速化をすすめ、より進化した低廉で快適な定額モバイルデータ通信サービスの提供を中心に、さらに新たなサービスを加えて積極的に事業を展開して行きます。このようなサービス提供を基本に、新会社は今後更なる拡大が期待される法人向けデータ通信市場を中心に積極的な営業活動を展開、事業の成長を目指します。

本件取引に関して、カーライルの安達マネージングディレクター、日本代表は次のように述べています。「通信分野はカーライルが得意とする事業分野であり世界的にも数多くの投資案件で成功を収めています。今回様々な角度からDDIポケットの事業を検証した結果、同社によるPHS事業は今後も引き続き高い競争優位性を保ち成長が見込めるとの結論に達しました。とりわけカーライルはDDIポケット現経営陣のPHS事業に対する知見ならびに経験を非常に高く評価しており、今後とも新会社の事業価値向上に専心して参ります。最後に、本件はカーライルがPHSという日本発の通信技術の更なる発展に貢献しうるまたとない好機と考えています。」

また、京セラの西口泰夫社長は次のように述べています。「DDIポケットによるPHS事業は、近年、競争力のある定額モバイルデータ通信サービスの展開を通じて業績が順調に推移しておりますが、今後、新たな株主の下、新会社の事業が更に発展することにより、当社としてもこれまでの海外市場における事業拡大に加え、国内における通信システム機器事業の事業基盤を強化できると考えています。また通信分野で投資実績のあるカーライルとの共同出資は、新会社の今後の更なる発展に向け強力なサポートを提供するものと考えています。」

さらに、KDDIの小野寺正社長は次のように述べています。「DDIポケットは独自のポジションを有する好調な事業ですが、事業の選択と集中の観点を含め、弊社及びお客様にとって最良のあり方を検討してきました。そうした中、複数の候補者に打診した結果、この提案が、弊社及びDDIポケット事業の今後にとっても大変魅力あるスキームと判断し、本日の契約成立に至りました。」

DDIポケットの山下孟男社長は次のように述べています。「新しい株主の下、我々はこれまで以上に、PHS事業の可能性を具現化できると確信しております。カーライルの通信分野での世界における経験、創業からのパートナーである京セラとの連携、そして引き続きKDDIとの連携、これらを結集することによって、経営陣以下従業員一丸となって、新たな付加価値を創造して行きます。」

本案件の概要

DDIポケットは、全事業をカーライル、京セラ及びKDDIが出資するコンソーシアムが保有する受皿会社に吸収分割する一方、同コンソーシアムから現金2,200億円を受け取ります。DDIポケットがクロージング時点で有する有利子負債全額の返済等に充てられた後で残った現金が、最終的には、DDIポケットの既存株主に対して支払われ、その後、DDIポケットは清算されることとなります。

以下が想定されるスケジュールです。

2004年6月21日	契約締結
2004年8月10日頃	DDIポケット分割承認株主総会
2004年10月1日	DDIポケット全事業の吸収分割（新会社として事業開始）
2004年10月15日頃	分割登記完了、エスクロー契約始動
2004年度内目途	DDIポケット清算

本件はレバレッジド・バイアウトの形態をとっており、国内外の金融機関によるシンジケート団から借り入れるノン・リコース・ローン及び、コンソーシアム等新株主が出資する自己資本により買収資金を調達しています。DDIポケットにおける分割承認株主総会を含むその他条件を満たすと、2004年10月1日に本案件が完了する見込みです。これを受け、DDIポケットは清算されます。なお、本件のスキームは、株主の異動だけでなく、負債についても全額借り換えが行われることを踏まえ、様々なリスク・取引コストを考慮して選択したものです。

本件に関するお問合せ先

京セラ株式会社：本社企業広報 TEL：075-604-3727、東京企業広報 TEL：03-3274-1577

本プレス・リリースでは、過去の事実に関する記述以外に、将来予想に関する記述が含まれている場合があります。これらの将来予想に関する記述は、既知および未知のリスク、不確実な要因およびその他の要因を含んでいます。かかる要因により、将来予想に関する記述に明示または包含される将来の業績、事業活動、展開または財務状況が、実際とは大きく異なる場合もありうることにご注意ください。

以上

〔別紙 1〕

カーライル・グループの概要

カーライル・グループは運用総額 1 8 3 億ドル（約 2 兆円）、1 9 8 7 年の設立以来 3 1 7 件の投資実績を持つ世界最大級のプライベートエクイティ投資会社です。世界 1 4 カ国において 5 4 5 名のスタッフが活動しており、製造業、消費財、エネルギー、ヘルスケア、テレコム・メディア、運輸といった業種を中心にバイアウト、ベンチャー、不動産、高利回り債券、ターンアラウンドの各分野における投資活動を行っております。日本においては日本人を主体とする 1 5 名の投資専門家が、プロ・マネジメント方針に基づいて、大企業の事業部門・中堅企業を対象に現経営陣によるマネジメント・バイアウト（MBO）を志向した投資活動を実施しております。

京セラ株式会社の概要

京セラグループは、全世界に 1 7 0 社余り、従業員約 5 8 , 0 0 0 名を有しており、2 0 0 4 年 3 月期の連結売上は 1 兆 1 , 4 0 0 億円を計上しています。現在、ファインセラミックスをはじめとした各種電子部品、太陽電池、携帯端末、PHS 端末および基地局など、幅広い事業を展開しており、特に近年は「通信情報」「環境保全」「生活文化」の 3 つの産業分野を 2 1 世紀のターゲット市場と定め、これらの分野に経営資源を集中しグループの総合力を発揮しています。特に通信情報産業市場に対しては、コミュニケーションをより豊かに進化させるユビキタス・ネットワークを支える重要な分野と捉え、部品から機器、サービス、ネットワークにいたるさまざまなツールを総合的に提供し、広がり続けるグローバルなネットワーク社会の発展に貢献することを目指しています。

- | | |
|--------------|--|
| (1) 商 号 | 京セラ株式会社 |
| (2) 代表者 | 西口 泰夫 |
| (3) 本店所在地 | 京都市伏見区竹田鳥羽殿町 6 番地 |
| (4) 設立年月日 | 1 9 5 9 年 4 月 1 日 |
| (5) 事業内容 | ファインセラミック関連事業、電子デバイス関連事業、
機器関連事業、その他の事業 |
| (6) 資本金 | 1 1 5 , 7 0 3 百万円 |
| (7) 発行済株式数 | 1 9 1 , 3 0 9 , 2 9 0 株 |
| (8) 決算期 | 3 月 |
| (9) 従業員数 | 1 3 , 6 0 4 名 (2 0 0 4 年 3 月末現在) |

KDDI株式会社の概要

KDDIは、2000年にDDI・KDD・IDOが合併して誕生した総合通信事業者であり、国内で唯一、移動体通信サービスとブロードバンドを含む固定通信サービスを一社で提供しています。auとツーカーのブランドで提供する携帯電話サービスの顧客数は2100万を超え、また固定電話の顧客数（マイライン）は、約850万に達しています。KDDIグループ73社では、約13,000名のスタッフが活動しており、2003年度の連結売上高は、2兆8,461億円を計上しています。KDDIでは、ユビキタス・ネットワーク社会の到来に向けた通信環境の整備を積極的に進め、安全で利便性に富んだ付加価値の高いソリューションを提供する「ユビキタス・ソリューション・カンパニー」を目指しています。

(1) 商号	KDDI株式会社
(2) 代表者	小野寺 正
(3) 本店所在地	東京都新宿区西新宿二丁目3番2号
(4) 設立年月日	1984年6月1日
(5) 事業内容	電気通信事業
(6) 資本金	141,851百万円
(7) 発行済株式数	4,240,880株
(8) 決算期	3月
(9) 従業員数	8,985名(2004年3月末現在)

DDIポケット株式会社の概要

DDIポケットは1994年に設立された日本の最大手のPHS事業者です。個人、法人を合わせ約300万人のお客様に音声やデータ通信のサービスをご利用いただいています。ワイヤレスで初めて全国ベースの定額制料金を実現したAirH™（エアーエッジ）サービスを事業の核として、今後もPHSのリーディングカンパニーとしてより進化したPHSサービスを提供してまいります。

(1) 商号	ディーディーアイポケット株式会社
(2) 代表者	山下 孟男
(3) 本店所在地	東京都港区虎ノ門三丁目4番7号
(4) 設立年月日	1994年7月1日
(5) 事業内容	電気通信事業
(6) 資本金	75,251百万円
(7) 発行済株式数	250,420株
(8) 決算期	3月
(9) 従業員数	818名(2004年3月末現在)

[別紙2] DDIポケット譲渡スキーム図

STEP 1: 10月1日

STEP 2: 10月中旬

STEP 3: 年度内目途

